

渡邊 俊一, 海底地殻変動観測グループ²

1: 技術・国際課 海洋研究室 2: 海洋防災調査室および技術・国際課

1. はじめに

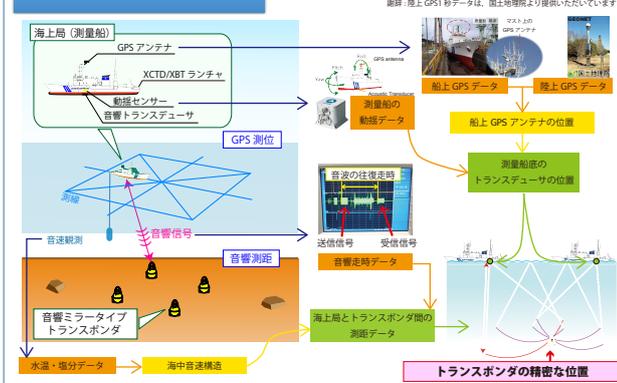
海上保安庁海洋情報部では、GPS-音響測距結合方式による海底地殻変動観測を実施している。海底観測点は、主に日本海溝及び南海トラフの陸側海域に設置しており、測量船による繰り返し観測を実施している。

これまでの観測から、海洋プレートの沈み込みに伴う定期的な地殻変動や地震に伴う地殻変動の検出に成功した。特に、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（M9.0）では、震源のほぼ真上の「宮城沖1」海底基準点が東南東方向に24m移動し、3m隆起したことを捉え、海溝付近での大きなすべりを観測で実証した。

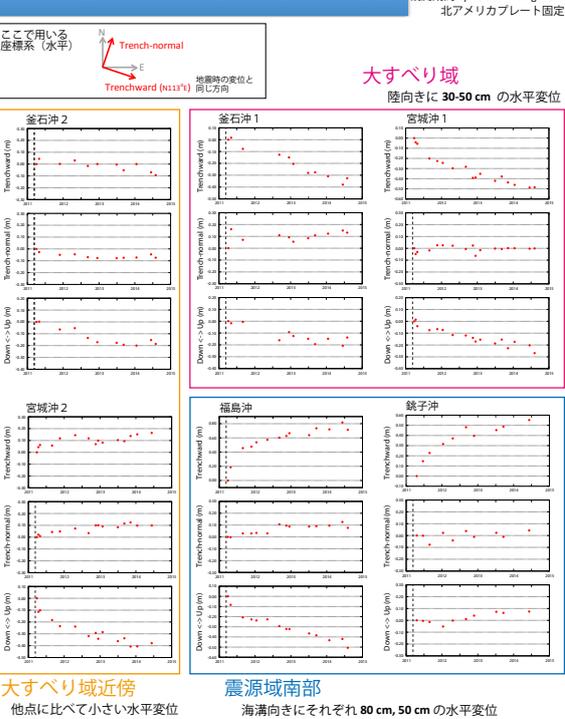
現在、日本海溝沿いの海域では、地震後の緩和過程に伴う複雑な地殻変動が継続しており、今後の状況変化を継続的に監視する必要がある。また、南海トラフ沿いの海域では、想定される巨大地震に関する基礎情報を取得するための、高精度な観測が求められている。

本ポスターでは、東北地方太平洋沖地震後の海底地殻変動について、今年度までに得られた観測成果を報告する。

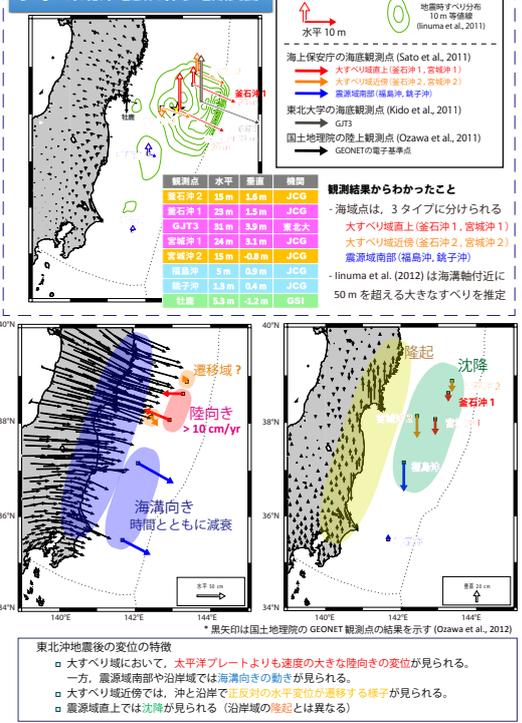
2. GPS-A観測の手法



3.1 日本海溝沿いの結果（3.11以降）



参考：東北沖地震に伴う地殻変動



3.2 南海トラフ沿いの結果（3.11以降）

